壬生野小だより

伊賀市立壬生野小学校
2023年11月24日①
発行責任者　藪中　俊典

5・6年生は「学vivaプリント集」を完成させて、27日（月）に提出しましょう。

５年生と６年生には、先週の休みと今週の休みの２週間をかけて、伊賀市教育委員会から出された「学vivaプリント」を仕上げてくるように宿題として出してあります。

問題の多くは、これまで「まなび～」で出題をしてきた問題ですので、難しくはありません。また今回の問題は、5年生の２学期までの学習内容であるので、5年生はもとより、6年生には定着しておいてほしい学習内容です。

既に、先週末で全てを仕上げて提出してきた子どもたちが多くいますが、一方、ほぼ手つかずの子どももいます。この週末には、必ず保護者の方で仕上げ具合を確認してください。

今週の時点で答え合わせをしての傾向をお伝えします。

①「空欄にはしないで、答えを書く」という意識は高まった。

先にも述べたように、問題の多くは、これまで「まなび～」でやったことのある問題です。そうしたこともあるのか、「空欄にはしないで、答えを書く」ことはできていました。

以前、伊賀市の子どもたちは、空欄で提出してくる子どもたちが多くいて、その時の議論では、「考えても分からなかったという子ども」以上に、「最初から考えることから逃げてしまっている子ども」が多いということが、伊賀市の子どもたちの大きな課題となりました。

そうしたことから、子どもたちには、空欄のまま提出するのではなく、「必ず、何らかの自分なりの答えを書いて提出する」ことを、これからも求めていきます。

②同じようなところを間違っている子どもが多い。

これまでやったことのある問題なので、ある程度は、できてほしいところでしたが、同じような間違いを繰り返している傾向が見られました。このことは、直しを含め、学校として指導が十分できていない結果であると思っています。それとともに、子どもたちに、「直しをして○になればいい」という意識があり、「理解しようという意識が弱い」ことも原因であると考えています。

今回の問題では、以下のような問題に弱さが見られました。

《国語》

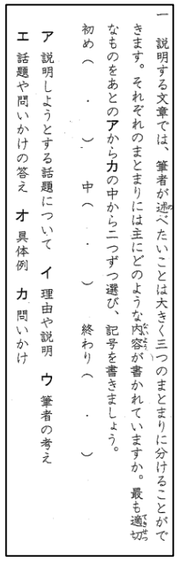
○漢字　交通きかん　消化きかん　（いつからいつまでの）きかん

○段落の構成を考える

特に、説明文では、それぞれの段落がどんな役割をしているのかを考えながら読むことが必要です。ただ、右の問題では、問われていること自体が分かっていなかったことも考えられます。

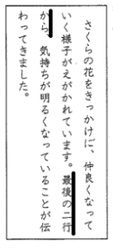
○感想に書かれている内容が答えを書くヒントになる。

「詩のよさをしょうかいしよう」には、「選んだ詩のよさについて書くこと」としか書かれていませんが、問題には右のような感想が載っているので、「書きぶりについてのよさ」を書いた方がいいです。

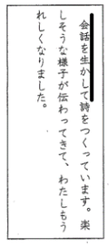

一　説明する文章では、筆者が述べたいことは大きく三つのまとまりに分けることができます。それぞれのまとまりには主にどのような内容が書かれていますか。最も適切なものをあとのアからカの中から二つずつ選び、記号を書きましょう。

初め（　・　）　中（　・　）　終わり（　・　）

ア　説明しようとする話題について　イ　理由や説明　ウ　筆者の考え
エ　話題や問いかけの答え　オ　具体例　カ　問いかけ


【詩Cに対する感想】

さくらの花をきっかけに、仲良くなっていく様子がえがかれています。最後の二行から、気持ちが明るくなっていることが伝わってきました。


会話を生かして詩をつくっています。楽しそうな様子が伝わってきて、わたしもうれしくなりました。

○条件を読んでいない。

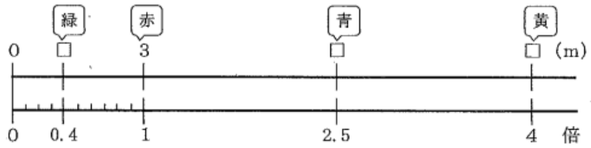
「折り紙を折る」の問題の条件の１つめには、「『折り紙を折る』の問題点についての解決方法を考えて書くこと」と書かれているにもかかわらず、折り紙の方がよいと考える理由を書いている子どもが多くいました。

《算数》

○割合：「もとにする量」がとらえられていない。

「白いテープの長さは、赤いテープの長さの何倍ですか」

この問題の場合、「もと」にしているのは、「白いテープ」ですか？それとも「赤いテープ」ですか？１年生に教科書の長さを測らせると、「消しゴムの４個分」とか言います。この場合、「もと」は「消しゴムの長さ」となります。そう考えると、上の問題では、「赤いテープの長さの何倍」なので、「赤いテープの長さ」が「もと」になります。そのことがとらえられれば、**比べられる量÷もとにする量＝何倍**に当てはめれば、何倍かを求めることができます。



○1より小さいから「わり算？」

右の数直線図を見ると、赤を「もと」にしたとき、黄の長さは「赤の4倍」、青の長さは「赤の2.5倍」ということが分かります。だから、長さを求める式は、それぞれ「３×４＝１２」「3×2.5＝7.5」となります。ただ、緑の場合は、「１」よりも小さな数であるため、「小さくなる」という意識からか「わり算」をして求めてしまう子どもが多くいました。おそらく、「倍＝増える」というイメージがあり、緑のように「1（もと）より小さくなる場合はわり算」ととらえてしまっているんだと思われます。緑の場合も、黄や青と同じように考えればいいので、「0.4倍」と考えて、「３×0.4」をすれば求めることができます。

○それぞれのマスはどんな人をあらわしていますか？

今回の問題で一番驚いたのが、右の表の理解ができていないことでした。それぞれのマスが、どんな人の人数を表しているのかが理解できていない子どもが何人もいました。さらに、「オ」に縦と横の全ての数を足して「２０」と答えていました。「オ」の答えは「10」です。

【表１】かっている動物調べ

出席番号	イヌ	ネコ
1	○	×
2	×	×
3	○	×
4	○	○
5	○	×
6	×	×
7	○	×
8	×	×
9	○	○
10	×	○

○：かっている
×：かっていない

【表２】かっている動物調べ（人）

		ネコ ○	ネコ ×	合計
イヌ	○	ア	イ	
	×	ウ	エ	
合計				オ

○：かっている
×：かっていない

③理科の学習内容が定着していない。

「まなび～」も、国語・算数を中心に復習をさせてきたため、理科の学習内容が定着していないことが明らかとなりました。さらに言えば、理科の問題は、言葉の穴埋めや「○×」のような問題ではなく、実験や観察の場面を取り上げ、その実験や観察の結果や分析を考えなくてはいけないため、まずは、問題の実験や観察の場面を正しく理解することが求められます。その上で、いくつか示されている中のどの結果になるのかを、理科の知識を踏まえて考えなくてはいけません。これからは、理科の復習もさせていきたいと思います。特に、今の４年生は、6年生になった時に受ける「全国学力・学習状況調査」では、国語と算数に加え、理科も受けることになっていることは知っておいてください。